

第7回『日本語体験コンテスト in バンコク』 実施報告書



<後列左より>

鈴木先生(シーナカリンウィロート大学)、西部審査委員長、山田審査委員、菊川実行委員長、久芳様(在タイ日本国大使館)、ナンタポーん様(JASSO タイ事務所)、Arisa Nimmanahaeminda 実行副委員長、キム先生(カセサート大学付属学校)

<前列左より>

入賞者 5名:Pantakan Meesanthia、Ramita Yimkerd、Phatsawi Napavorakul、Jidapa Lumpa、Natchana Kitayama

【開催日】2019年9月14日(土)予選会 12:00～ 本選会 13:30～

【会場】タイ王国・バンコク市 PATHUMWAN PRINCESS HOTEL MF

【主催】一般財団法人 共立国際交流奨学財団

【現地運営団体】J-Study Center

【後援】文部科学省 在タイ日本国大使館 全日本空輸株式会社バンコク支店

【協賛】株式会社 共立メンテナンス

【協力団体】JASSO タイ事務所/ダラサムット学校/カセサート大学付属学校/シーナカリンウィロート大学/シラパコーン大学付属高校/シーヤーヌソーン高校
ウボンラーチャターニー大学

<総評>

2013年より始まり、今年で7回目を迎えた「日本語体験コンテスト in バンコク」は9月14日(土)、タイ王国・バンコク市 PATHUMWAN PRINCESS HOTEL にて開催されました。

コンテスト応募者は117名と、非常に多くの方に興味を持っていただき、当日は76名が参加されました。

予選会では、日本の地理、政治、経済、文化、文学、社会、流行などの幅広い分野から、聞き取り問題30問が出題され、予選会を通過した19名が本選会に進みました。

今年のスピーチ課題は、

①日本では翻訳機が売られています。もしあなたが翻訳機を手に入れたら、日本語を勉強しないで翻訳機を使いますか？それとも使わないで日本語を勉強しますか？その理由を話してください。

②日本政府は「日本人は働きすぎる」という問題から、働き方を変えようとしています。働きやすくするためにどんな方法があると思いますか？その方法を教えてください。

③日本語を習得するのは難しいと思いますか？それとも簡単だと思いますか？その理由を話してください。この3つのテーマから1つを選択し、5分間のシンキングタイムの後、3分間の即興スピーチをしていただきました。

本選会出場者は①のテーマを4名、②のテーマを5名、③のテーマを10名の方が選択しました。スピーチ内容としては、①のテーマでは、日本語は深みがある言語なので、翻訳機では表現しきれないという意見と、勉強と併用して使いたいという意見が多かったです。②のテーマでは、「過労死」や「有給休暇」という言葉を知ったうえで、不要な残業をしないことや、家族や友人と旅行に行くべきという意見もありました。また、時間を気にしないことや、お菓子を食べたり、ゲームをしながら仕事をする人もいて、タイ人の働き方と比較し、会場が笑いに包まれました。③のテーマでは、日本語の習得は簡単だという意見も多く、好きな日本のアニメを観て、楽しみながら日本語を勉強している様子がうかがえました。

そして、審査委員3名による審査の結果、5名が入賞し、実行委員長より賞状と賞品目録が授与されました。

入賞賞品として、2020年1月19日(日)～1月26日(日)(7泊8日機内泊1泊)の日程で、日本体験旅行に参加していただきます。

この日本体験旅行を通じて、日本の良さを身をもって感じていただき、1人でも多くの方に日本への留学を志していただければと思っております。そして、この経験を通じて、将来日本とタイ両国の発展に大きく貢献する人材となることを願っております。

<実施報告>

■ 予選会

予選会	12:00～	開会の辞・注意事項説明
	12:05～	予選 (日本の地理、政治、経済、文化、文学、社会、流行などについての聞き取り問題30問)



受付の様子



予選会の様子

成績上位者19名が本選会へと出場しました！

■ 本選会

本選会	13:30～	予選通過者発表
	13:40～	開会の辞・審査委員紹介・注意事項説明
	13:50～13:55	シンキングタイム
	13:55～	スピーチ(審査委員による質疑応答あり)



本選会の様子



質疑応答の様子

■ 表彰式

表彰式	15:30～	「夢・日本体験賞」発表(5名)
-----	--------	-----------------

<式次第>

- 一、 開会の辞
- 一、 実行委員長挨拶
- 一、 来賓挨拶
- 一、 審査委員長講評
- 一、 入賞者発表
- 一、 奨励賞授与
- 一、 閉会の辞

<実行委員長 挨拶>



菊川実行委員長

<来賓 挨拶>



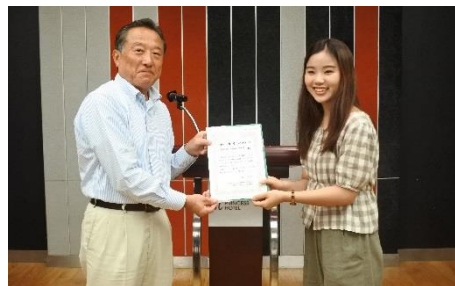
在タイ日本国大使館
一等書記官 久芳 全晴様

<審査委員長 講評>



西部審査委員長

<賞状授与>



菊川実行委員長より入賞者 5 名に
賞状と目録が授与されました。

<奨励賞授与>



Arisa 実行副委員長より
本選会出場者 14 名に
奨励賞と参加証明証が授与されました。

入賞者 5 名には、
『夢・日本体験賞』
(7泊8日の日本体験旅行)
を贈呈しました。



名前	在籍校
ナッチャーナー キタヤマ Natchana Kitayama	Japanese House
パッサウィー ナバボラクル Phatsawi Napavorakul	シーナカリンウィロート大学
ジダーパー ラムパー Jidapa Lumpa	泰日工業大学
ラミター イムガード Ramita Yimkerd	トリアムウドムスックサー高等学校
パンタカーン ミーサンティア Pantakan Meesanthia	モンクット王ラカバン工科大学

審査委員講評



審査委員 山田 光矢
(一財)共立国際交流奨学財団 奨学金選考委員
日本大学大学院 法学部 教授

今回のスピーチの課題は、①日本では翻訳機が売られています。もしあなたが翻訳機を手に入れたら、日本語を勉強しないで翻訳機を使いますか？それとも使わないで日本語を勉強しますか？その理由を話してください。②日本政府は「日本人は働きすぎる」という問題から、働き方を変えようとしています。働きやすくするためにはどんな方法があると思いますか？その方法を教えてください。③日本語を習得するのは難しいと思いますか？それとも簡単だと思いますか？その理由を話してください。の3つでした。①が4名、②が5名、③が10名で、ヤンゴンでは②はいなかったもので、バンコクでスピーチをされた方々の日本に対する興味が広範囲なことや、日本の社会現象へ言いたいことが多々あることが理解できました。

①では、「翻訳機が説明するときの単語が少なく、誤った使い方をした経験があった」ことや、「機械的な翻訳では、本当の気持ちを伝えることができないことも多い」、あるいは「いろいろな情報に接して、言葉とともに文化や感情表現などを学ぶ必要がある」といった意見が示されました。②では、「日本人は働きすぎでストレスが多いのではないか」、「残業が多すぎるのでは」、「日本人の自殺の大きな原因となっている」、「過労死が多い」といった意見から、マスコミを中心とした理解が進んでいることがわかりました。③では、「マンガやアニメ、アイドルや好きな歌手の歌やなどを通じて日本語と接している人が多かった」ことや、「聞くことは意外に簡単だが、自分から話すことは難しい」と答えてくれた人が多かったのは予想通りでした。

ただし、2分半を超えてスピーチされた方は数名だけで、多くの方のスピーチが2分以内で、内容も少し薄かったといえます。短いスピーチが続いたことで、皆さんがそれに合わせてしまったように感じました。あと一つ何かを付け加えて少し長めにスピーチしていただければ点数が上がった人が多くいました。スピーチの訓練をされてまたチャレンジしてください。もちろん初めての方も大歓迎です。